



進路選択の先にある、将来を見つめて

進路指導主任 佐藤由乃

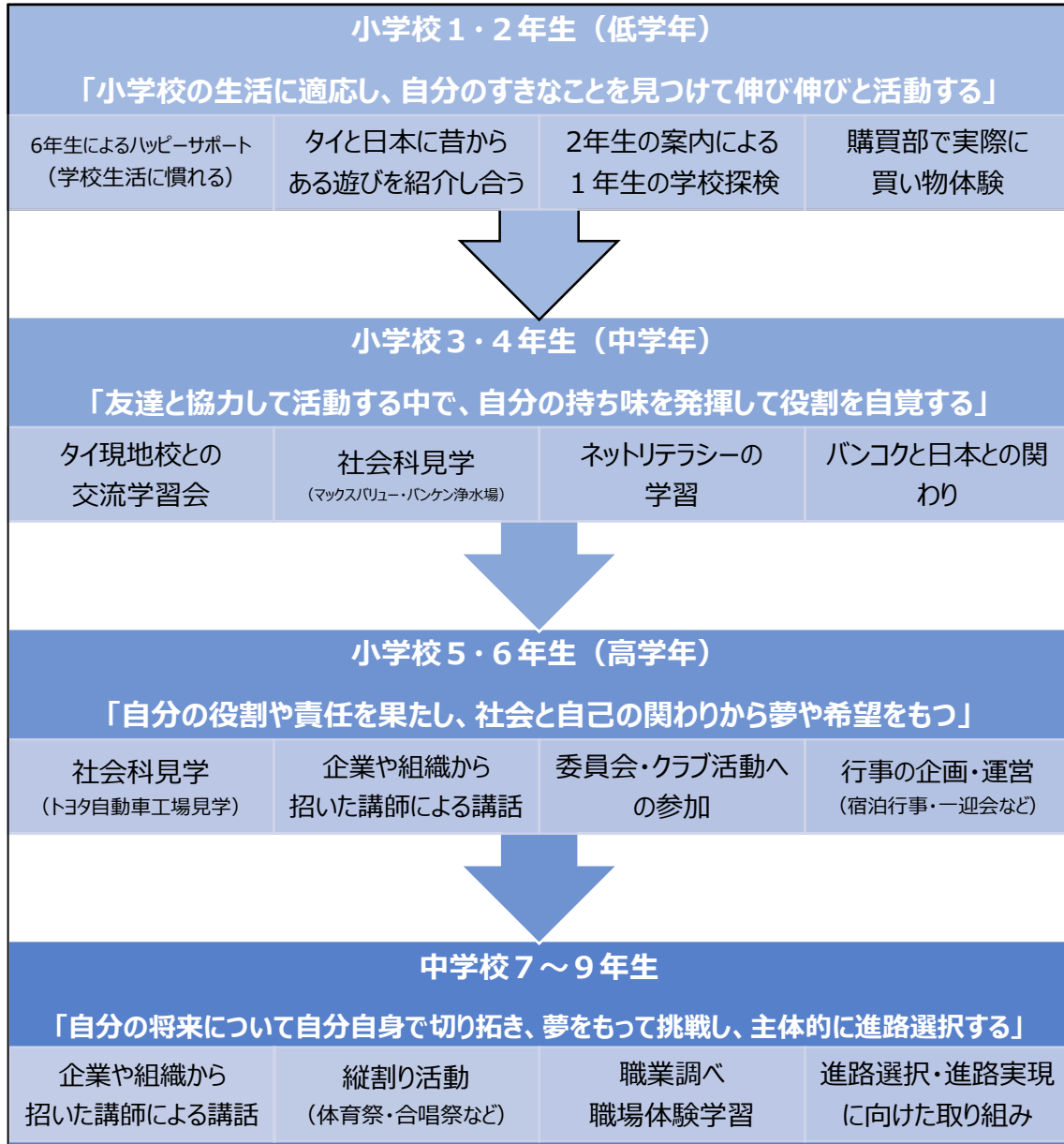
校舎に元気いっぱい響き渡る子供たちの声とともに、2学期がスタートしました。新しく迎えた仲間と一緒に、一人一人が伸び伸びと成長する2学期になることを願っています。

先日、沖縄から「男子バスケットボール日本代表が、48年ぶりに自力での五輪出場を決めた」という熱いニュースが届きました。その立役者の一人に、チーム最年少の河村勇輝選手がいます。彼は、パリ五輪出場の目標を果たすため、大学を中退してプロへ転向するという大きな決断をしました。同じく大活躍だった同い年の富永啓生選手は、高校卒業時、バスケットボールの本場アメリカで挑戦するという決意をしました。彼らに共通するのは、自身の将来を見据えた“決断”です。変化の激しいこれからの社会を生きていく中で、進路を選択する場面はますます増えることが予想されます。そういった意味でも、自らの進路を主体的に選択できることは、今後の人生においても重要な能力だと言えます。

近年、教育現場だけではなく企業でも「キャリア教育」という言葉がよく使われます。“キャリア”と聞くと、“=経歴”と考えられがちですが、教育現場でのキャリア教育は「この先自分はどうなりたいのか」「目標をどこに定めるのか」そして「どんな人生を歩んでいきたいのか」という、“自身の生き方”を考える言葉として使います。バンコク日本人学校の最高学年である9年生は、この2学期、多くの生徒にとって初めての大きな決断となる、進路選択を控えています。その時に、「これから続く道を想像し、自身がやりたいことや挑戦したいこと、得意なことを生かせる路を考え、判断し、決断できるかどうか」がとても大切です。そして、これらの力を養うのが9年間の義務教育期間であり、本校でもこれらのことを見据えた“キャリア教育”に取り組んでいます。大まかなキャリア教育の流れは、裏面の図のようになります。キャリアや進路という言葉を知ると、どうしても中学校や高校の受験を思い浮かべますが、小学校の時から積み重ねられているものなのです。日々の生活で積み重ねる多くの経験が、児童生徒の進路選択の選択肢を増やし、将来を考える豊かな想像力を育み、そして自身の路を決断する糧となります。

本校の進路指導目標は『児童生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自らの意思と責任で主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けることができるよう、学校全体の教育活動を通して組織的・継続的な指導と援助を行う』です。この目標を達成できるよう、保護者の皆様と協力しながら日々の教育活動に励んでまいります。2学期もどうぞ、よろしくお願いいたします。

【 進路を見据えた、キャリア教育の大まかな流れ 】



日々の学校生活における積み重ねの先が、児童生徒一人一人の主体的な進路選択、そして将来へとつながっていきます。

お知らせ

<お知らせ>

9月1日(金)より、2名の教職員が新たにバンコク日本人学校に着任しましたので紹介します。

🌸 2年3組担任

佐藤 朝香(さとう あさか) 教諭

🌸 なかよし学級3組担任

石田 絵里(いしだ えり) 教諭 です。

どうぞよろしくお願いいたします。